
バレットの学園日記

ミロンド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バレットの学園日記

【Nコード】

N8916Y

【作者名】

ミロンド

【あらすじ】

色違いのピカチュウとその親友ツタージャ達のドタバタ学園生活。

この学園は“スキル”を育成すると言われたが…？

く大波乱の序章く（前書き）

誰も見てくれなくなつて頑張るぞっ！！

ラ「哀れだな。」

そんな目するなあああ！！

～大波乱の序章～

ここはポケモンしかない世界…

「…ふう、やっとついた…」

俺の名前はバレット。

一応ピカチュウ。

えっ？なんで“一応”かって？…色違いだからってことで納得してくれ。

バレット（以下、“バ”と省略）「ったく…あいつ入学の日に遅刻か？」

？「お～～～い！！」

やっときた。

バ「おそいぞ、ラック。」

ラックは俺の古くからの親友。

そしてツタージャである。

ラック（以下、“ラ”と省略）「ごめん、ごめん
電車に乗り遅れて…」

バ「お前電車乗らねーだろっ！」

ラ「うん。それより早く行こうよ」

スルーされた…ちよつとヘコむ

バ「あ、ああそうだな…」

今、俺達はとてつもなくデカイ学園の前にいる。

バ「噂には聞いてたがデカイな」

ラ「そうだね」

俺達はその学園の大きさに驚いていると…

？「おらっ！テメーら、どけっ！」

俺は後ろ向く。“俺達”じゃないのはラックは後ろ向いてないからバ「誰だ？テメー？」

後ろ向いていたのは：

リース（以下、“リ”としょ（ry）「俺はフローゼルのリースだ！ちなみに教師だっ！」

バ「教師がそんなんでいいのかっ!？」

リ「教師に向かってなんだ！」

バ「お前こそ、生徒に向かってなんだ！」

ラ「遅刻するぞ！早く行こうぜ！」

ラックの一言で

リ「今日は見逃してやるよ。せいぜいあがいてなっ！」

ムチャクチャ腹たった。10万ボルトお見舞いしてそのまま逃げた。

ただいま入学式。包帯巻いたリースがこっち完璧睨んでる。…無視してるけど

？「では、校長のお話です。」

鳥のポケモンが壇上に登っていく。

：あれはウォーグルか。

ラ「“あれは”と呼び捨てはどうかと思うよ？」

お前はエスパーかっ！

ウォル（以下、“ウォ”と（ry）「えーみなさん

おはよう御座います。校長のウォルです」

校長は礼儀正しい挨拶をした。

ウォ「えー、皆さん多分：いや全然？もしや全く？この学園の広さに驚ろいてるかも

しません」

どんだけ自信ないんだよ！

でも確かにこの学園は広過ぎる…

ウォ「それは君達は全く気付いてないかもしれないませんが能力を育成するためです。」

あたりがざわつく。

ウォ「スキルとは“もらい火”などとは違い

普通のポケモンは持ってません。まあ詳しい事は授業で説明します。

………」

その後は色々な話をして入学式は終わった

ラ「なあ、クラス表見に行こうよ。」

バ「ん、ああそうだ……」ラ「あ、一緒のクラスか。二組かあ。」

ラックは呟く。……いやまて！

バ「どうしてわかるんだよ？」

平然を装い聞いてみる

ラ「いや……見えるし、クラス表。」

ちなみにクラス表と俺達の距離は120mくらい。

バ「いや！おかしいだろ！あんな離れてん

のにどうして見えるだよっ！！」

ラ「視力がいいから」

もはや視力のレベルこえてます。

バ「……ちなみに先生は？」

ラ「リース先生だね。フローゼルの」

うわああああ………帰りたい。

しかしこれはあとからおきる大波乱の序章に過ぎなかった

くああ、もう帰りたい。でも帰れない……(前書き)

投稿ペースは早いから。

ラ「最初はそうだよ。大体の人は」

いや、僕の座右の銘は“前代未聞”ですから

ラ「うん、で？」

冷たいなあ

「ああ、もう帰りたい。でも帰れない……」

（教室内）

バ「あー、もうやだよー帰りたいよー。」

ラ「さっきからそればかりだね。」

バ「だって担任あのリースだ……」リ「あの”ってなんだ？おい？」
ああ……来ましたか……

リ「まあテメーの相手はあとでだ。」

バ「一人でお願いします。」

ラ「先生が悲しい人になるよ？」

リースは教壇の前に立ち、言った

リ「オメーら黙れ、話してるから」

しかし一部は話をやめない。

リ「そーか、そうゆうことだな……」

＞リースのハイドロポンプ……！

効果は抜群だ……！

バ「なんだ！このテロップうう……！！」

ラ「僕が作った……」

お前かよ！とつつこみを入れてからハイドロポンプを喰らったポケ
モンを見る……

……ポカブだ。そりゃ効果は抜群だな

リ「……チッ。おい、バレット、ラックコイツ、保健室に運べ。」

バ「なんで俺達なんだよ……！」

ラ「僕はかまわないよ……金あとで請求するぞ」
ん？すげー重低音で凄いこといわなかった？

所変わって保健室

？「ん…う…ん」

ラ「あ、起きた」

バ「大丈夫か？」

？「う、うん。君達は？」

バ「俺はバレット。で、こっちはラック」

ハクル（以下、“ハ”）「僕はハクル。よ、よろしくね。」

ハクルは手を伸ばす。握手を求めているようだ。

バ「うん、よろしくね！！」

ラ「じゃ教室戻るぞ、委員決めてるから」

視力も凄けりゃ、聴力も凄い…のか？

ハ「うわー耳いいんだね。」

耳いいとかそんなじゃないかと。

ラ「それよりお前、委員長になりそ…」バ「させるかっ！！」

リ「えーじゃあ委員長はバレットで…」バ「いいわけないだろうが
つつっ！！」

ハ「はあ…はあ…つ、疲れた…」

ラ「ん？そうか？」

視力も聴力も体力も凄いラックさん

リ「…っち。めんどい事押し付けようと思ったのに…」

バ「テメー…ハア…ハア…ふざけ…ハア…んなよっ！ハア…ハア」

ラ「ハアハアうぜえ。」

？「僕が委員長やります！！」

リースとバレットが取つくみあいになりそうになった時、彼は言った。

リ「ん？ああ…じゃあお前委員長ね」

そうして1日が終わった。

…後日

リースの家に封筒が届いた。

リ「何々？ “お手つ代” …ふざけてんのかあああつつつ！？」

「ああ、もう帰りたい。でも帰れない……」(後書き)

「登場ポケ紹介!!」

今日はラック君です。

バ「何で俺じゃないんだっ!」

はい、無視無視

ラック ♂ ツタージャ

スキル ?

視力聴力体力ともに異常。

バレットの親友。のんびりとした性格だが
案外隙がない。

まあ最初だしね。ここまで

ラ「次回もみてくれよ」

バ「俺が言いたかったあ!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8916y/>

バレットの学園日記

2011年11月26日22時56分発行